

たしかめ

1

名前

1

してんをかえてかんがえなおす。

2

さてつはすなのなかにまじっているてつ。

3

はらが痛い。ふく痛だ。

4

やすい値だんでげんりょうをかう。

5

へいれつにでんちをならべまめでんきゅうをてんとうさせる。

たしかめ Ⅰ

5	4	3	2	1
並	段	腹	砂	視
並列に電池を並べ豆電球を点灯させる。	安い値段で原料を買う。	腹が痛い。腹痛だ。	砂鉄は砂の中に混じっている鉄。	視点を变えて考え直す。

たしかめ

2

名 前

6

でんしゃを
おりたら
あめが
ふっていた。

7

「にんか」とは、
ねがいを
みとめて
ゆるすこと。

8

汚れた^{こま}
いるいを
あらう
きかいが
せん濯^{たく}き。

9

つねと
ことなる
ことだから
「いじょう」。

10

たんじゅんめい
かいな
せつめいで
よく
わかる。

10	9	8	7	6
純	異	洗	認	降
単純明快な説明でよく分かる。	常と異なることだから「異常」。	汚れた衣類 <small>（いり）</small> を洗う機械 <small>（き）</small> が洗濯機 <small>（たく）</small> 。	「認可」とは、願いを認めて許すこと。	電車を降りたら雨が降っていた。

たしかめ

3

名 前

11

しゃてい距離きょりにはいった獲えものをやでいる。

12

12
せなかからバーを跳とび越こすはいめん跳とび。

13

13
よんいかはすて、ごいじょうはきりあげるししやごにゆう。

14

14
しっぱいし、おもわずしたをだす。

15

15
らんざつなつかいかたをしてへやがみだれる。

15	14	13	12	11
乱	舌	捨	背	射
乱雑な使い方をして部屋が乱れる。	失敗し、思わず舌を出す。	四以下は捨て、五以上は切り上げる四捨五入。	背中からバーを跳び越す背面跳び。	射程距離に入った獲物を矢で射る。

たしかめ

4

名前

16

16 私のがつこうのつうがくいきはひろい。

17

ざっしの
ふろくが
たのしみだ。

18

えいぞうをスクリーンにうつすから「えいが」。
 どうろをかくちようするこうじ。

19

19 どうろをかくちようするこうじ。

20

なつやすみの さくひんを てんじする。

20	19	18	17	16
展	拡	映	誌	域
夏休みの作品を展示する。	道路を拡張する工事。	映像をスクリーンに映すから「映画」。	雑誌の付録が楽しみだ。	私の学校の通学区域は広い。

たしかめ

5

名 前

21

くらのなかに秘^ひぞうしていた宝^{たから}もの。

22

22
ほうにちしただいとうりょうがげん爆^{はく}しりょうかんをおとずれた。

23

23
ゆめからさめ、われにかえる。

24

24
「その^だけん、うけたまわりました。」と
しょう諾^だした。

25

25
もち^{もち}ごめをじょうきでむしてお餅^{もち}つき。

25	24	23	22	21
蒸	承	我	訪	蔵
もち米を蒸気で蒸してお餅つき。	「その件、承りました。」と承諾した。	夢から覚め、我に返る。	訪日した大統領が原爆資料館を訪れた。	蔵の中に秘蔵していた宝物。

たしかめ

6

名 前

26

26

こうつうじこのしよりをする警かん。

27

27

しよくにつくことを「しゅうしよく」という。

28

28

うみにのぞむばしよにあるりんかいこうぎようちたい。

29

29

じゅうじゆんにしじにしたがうかわいいあいけん。

5

30

いぬはみっかかえばおんを忘れず。

30	29	28	27	26
恩	従	臨	就	処
犬は三日飼えば恩を忘れず。	従順に指示に従うかわいい愛犬。	海に臨む場所にある臨海工業地帯。	職に就くことを「就職」という。	交通事故の処理をする警官。

たしかめ

7

名前

31

3 | 訴えや あらそいを さばくことが 「さいばん」。

32

きりつをまもって
たのしい
がっこうせいかつ。

33

3 3
だいのうと
しょうのうから
できている
のう。

34

ないしきようで
ないぞうの
ようすを
しらべる。

35

3 5
ちようで
えいようを
吸収する。
きゆうしゆう

35	34	33	32	31
腸	臓	脳	律	裁
腸で栄養を吸収する。	内視鏡で内臓の様子を調べる。	大脳と小脳からできている脳。	規律を守って楽しい学校生活。	<small>うった</small> 訴えや争いを裁くことが「裁判」。

たしかめ

8

名 前

36

36

はいからさんそをとりいれている。

37

37

たべすぎていが痛い。いぐすりをのむ。

38

38

わたしはいきもののせわがすきだ。

39

39

からだとこころはみっせつにかんけいしている。

40

40

よんでもへんじがない。じんこうこ吸きゅうをはじめる。

40	39	38	37	36
呼	密	私	胃	肺
呼んでも返事が無い。人工呼吸を始める。	体と心は密接に関係している。	私は生き物の世話が好きだ。	食べ過ぎて胃が痛い。胃薬を飲む。	肺から酸素を取り入れている。

たしかめ

9

名 前

4 1

いきをすったり吐^はいたりする「こきゅう」。

4 1

4 2

にほんにもぞうがそんざいしていた。

4 2

4 3

ちきゅうのおん暖^{だん}かはしんこなもんだいだ。

4 3

4 4

はげしいながれをげきりゅうという。

4 4

4 5

ざったなじょうほうをかんりやくする。

4 5

45	44	43	42	41
簡	激	刻	存	吸
雑多な情報を簡略化する。	激しい流れを激流という。	地球の温暖化は深刻な問題だ。	日本にも象が存在していた。	息を吸ったり吐いたりする「呼吸」。

46

46

つくえのまわりをせいりする。

47

47

むずかしくてかいけつするのは困^{こん}なんだ。

48

48

「それほんとう?」、うたがわしくてはんしんはんぎだ。

49

49

えいがかんのにゅうじょうけんをかう。

50

50

ていでんでこうじにししょうがでる。

50	49	48	47	46
障	券	疑	難	机
停電で工事に支障が出る。	映画館の入場券を買う。	「それ本当?」、疑わしくて半信半疑だ。	難しくて解決するのは困難だ。	机の周りを整理する。

たしかめ

11

名前

51

51

おもてせんけや裏せんけはさどうのりゅうは。

52

52

ぼうふうけいぼうがはつれいされた。

53

53

ぜいきんを徴収するぜいむしよ。

54

54

せんとうは、ぜいを払ってはいるふ呂。

5

55

かいしやにつとめるちちはでんしゃでつうきんする。

55	54	53	52	51
勤	銭	署	警	派
会社 に 勤 める 父 は 電 車 で 通 勤 する。	銭 湯 は、 銭 を 払 <small>はら</small> つて 入 る 風 呂 <small>ろ</small> 。	税 金 を 徴 収 <small>ちよう</small> する 税 務 署 。	暴 風 警 報 が 発 令 さ れた 。	表 千 家 や 裏 千 家 は 茶 道 の 流 派 。

60

くばるかみのまいすうをかぞえる。

60

59

ぜいきんをおさめることが「のうぜい」。

59

58

ふた^{けた}桁しようにおさめ、しゅうにゆうがばいぞうしたせんしゆ。

58

57

しよくひんメーカーていきようのばんぐみ。

57

56

しよくをたびしてけんぶんをひろめる。

56

たしかめ

12

名前

60	59	58	57	56
枚	納	収	供	諸
配る紙の枚数を数える。	税金を納めることが「納税」。	二桁 ^{けた} 勝利を収め、収入が倍増した選手	食品メーカー提供の番組。	諸国を旅して見聞を広める。

61

61

「せんしよく」とは、ぬのやいとをそめること。

62

62

テレビでせんでんちゅうのしんがたじどうしゃ。

63

63

まいにちたのしくくらししている。

64

64

宝^{たから}ものをさがしもとめる。

65

65

バスのざせきにすわる。

65	64	63	62	61
座	探	暮	宣	染
バスの座席に座る。	宝物を探し求める。	毎日楽しく暮らしている。	テレビで宣伝中の新型自動車。	「染色」とは、布や糸を染めること。

66

よう稚^ちえんは、おさないようじが かよいます。

67

ちよしゃの にんぎで いちじるしい ほんの うれゆき。

68

「じんけん」は、ひとが ひとらしく いきる けんり。

69

ひとを とうとい ものとして 敬^{うやま}うことが 「そん敬^{けい}」。

70

きしょうちょうの てんきよほうを きく。

70	69	68	67	66
庁	尊	権	著	幼
気象庁の天気予報を聞く。	人を尊いものとして敬うことが「尊敬」。	「人権」は、人が人らしく生きる権利。	著者の人気で著しい本の売れ行き。	幼稚園 ^ち は、幼い幼児が通います。

71

よそおいも あらたに しんそうかいてん。

72

ちゅうもんひんを はいたつさきに とどける。

73

もくてきや わだいに そつて はなしあう。

74

つきに へいきん ごさつの ほんを よむ。

75

ちゅう
う 宙りようこうも ゆめではない。

75	74	73	72	71
宇	冊	沿	届	装
宇宙旅行も夢ではない。	月に平均五冊の本を読む。	目的や話題に沿って話し合う。	注文品を配達先に届ける。	装いも新たに新装開店。

76

かろやかに ちゅうがえりする たい操^{そう}せんしゅ。

77

はいくには きごを かならず いれる。

78

かきあやまりを ごじ という。

79

まくを はった なかに 将^{しょう}ぐんが いたので ばく^ふい。

80

あさから ばんまで けんきゅうに 没^{ぼつ}とうするか がくしや。

80	79	78	77	76
晩	幕	誤	俳	宙
朝から晩まで研究に没頭 <small>ぼつ</small> する科学者。	幕を張った中に將軍がいたので幕府。	書き誤りを誤字という。	俳句には季語を必ず入れる。	軽やかに宙返りする体操選手。

たしかめ

17

名前

81

だい き ぼ な
へい じ よ う き よ う の
ふ く げ ん も け い 。

82

82
しやそうから
眺めるながめ
まどの
そとの
けしき。

83

よていびを さきに のばすことが 「えんき」。

84

84
こうろんをやめ、れいせいにはなしあう。

84	83	82	81
論	延	窓	模
口論をやめ、冷静に話し合う。	予定日を先に延ばすことが「延期」。	車窓から眺める窓の外の景色。	大規模な平城京の復元模型。